

PHD LETTER

96

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

2005.9

- 第7回ビルマスタディツアー報告
- 新シリーズ「どうせ買うなら、使うなら！」
- PHD活動紹介

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり (Peace) 健康づくり (Health) を担う人材をつくる (Human Development) 運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行： 財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人： 藤野 達也
住所： 〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E mail： phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL： <http://www.kisweb.ne.jp/phd>
定価： 100円
郵便振替口座： 財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688



東北タイの人々の主食はもち米。蒸しあげたごはんをこの器に入れて、食卓へ、お出かけに。今日は産地の村まで買いに来た。おばちゃんがカゴを編みながら店番していた。

タイ、カラシン県 撮影 FUJINO T.

東南北 問題解決 取組日記

必要な変化に対応する策を

時の流れとともに地域の状況も変化している。市民による国際協力の活動にも必要な変化があるだろう。研修生の選考、海外のカウンターパートとのやりとり、国内研修の実施方法、フォローアップといった研修部門はもちろん、広報、運営面においても見直しをすすめている。今年度になって、いくつかの新しい試みがはじまっている。

6月に今年度の会費納入をお願いをさせていただいたが、活動をすすめる上で資金が必要なのはいうまでもない。当会は、これまで皆さんの会費とご寄附によって、そのほとんどをまかなってきたが、近年その集まりが十分とは言えず、また先の見通しも明るいとは言えない。これを打開するために事務局、理事会、評議員会で話し合い、策がたてられるが、同じ立場の人間だけでは発想に限界がある。研修の実施においては多くの方々のかかわりとアイデアが反映

しているが、資金を得ることにおいても同様のことができないだろうかと考え、先日、収入向上検討会の1回目を会員とボランティアの有志でもった。ここでは、24年やっているわりには知名度が低い、岩村医師のネパールでの活動も知らない世代が多くなっている、活動が地味でマスメディアへの登場が少ない、やっていること、狙いが一言で表しにくく、説明が難しい等々……。ひとつの方法で万事解決という妙案はなかりうが、初めての人にわかりやすい説明ツールづくりが必要との点では一致した。紙媒体のみならず、他の方法の用意も求められた。現在あるものを一度に切り替えることはできないが、新規分から、この検討会の意見を反映させていきたい。すでにPHDにかかわって下さっている皆さんが、周囲の方々におすすめやすく、わかりやすいものを用意して、活動を広めていきたい。

会報「PHD LETTER」も、これまで以上に会員、ボランティアの参画を高めていこうと、本号にも反映させてみた。皆さんのご感想、ご意見を、ぜひいただきたい。いろいろ

と試し、より面白く、刺激のあるものを目指していきたい。

お昼を食べながら

これまでも他の国際協力NGOや政府系の組織と協働することを少しずつ始めてきた。加えて5月からは国際協力で限定されない様々な市民活動を支援している団体のスタッフと月に1回お昼ごはんを食べながらくつろいで意見交換をするひとときをもっている。当会は神戸の元町通という商店街の5丁目にあるが、お相手の神戸市民活動センター(KEC)は6丁目、歩いて数分。毎回場所を交代して、弁当袋をさげて訪ねあう。名称は少しおしゃれに「Brown Bag Lunch Meeting」(茶色の紙袋に入れたお昼を持つての集い)。実際は白っぽいポリ袋が多いのが残念だが、少し分野が違うところでの話に、気づきや新しい発想が得られることがある。また似たサイズの組織なので、運営についての話題は刺激がある。ヨソの団体との会合は特定の担当者だけになりがちなので、このBBLミーティングはできるだけ全員参加できるようにと日を決めている。ボランティアの皆さんの参加も大歓迎。

藤野達也

今年でPHD協会設立から25年目を迎えますが、長い時間の経過と共に多くの人々とのふれあいがありました。今回は、設立初期から現在までずっとおつき合っているお二人にPHDとの出会いや最近思うことなど話を聞いてみました。

平和じゃないと健康も無い

—— PHDとの出会いは？

「山の上にある病院」など岩村昇先生のご本を読んで尊敬していたのですが、1980年にエベレストが見たくてネパールに一ヵ月滞在した時、ご夫妻が孤児のために作られた施設「おかあちゃんホーム」はどの辺りかしらと、山道を歩きながら話題になったんです。その後、先生の講演会があったので、川那辺さんと聞きに行き、受付でPHDのボランティアに誘われたのよ。

—— 長く活動を続けられたのは？

無理をしなかったから。私は事務所までの電車代ならやりくりできると思って。以前は週一回、今は月に一回だ

け。マイペースでやってきたから長く続いたの。と、赤松さん。川那辺さんは赤松さんに誘われてやって来たそうです。そんな二人は今の仲よし。私たち職員より遥かに長い時間PHDと関わりを持っており、昔の話を懐かしそうに話してくれました。

「何かを長く続けること。」それはとても大切なことです。熱しやすく冷めやすい現代社会。お二人のゆったりとした時間が心地よく感じました。

そして話題は戦争へ。今年は終戦から60年。赤松さんは横浜で、川那辺さんは中国で終戦を迎え、翌年引き揚げ船で日本に戻りました。その道りには

とても過酷だったそうです。

—— 何かメッセージを

PHDの「P」は平和のPEACEよね。平和じゃないと健康も無い。とても大切なことよ。

川那辺裕子さん (67才)

きびきびした動きで赤松さんをリードすることも。



赤松恵美子さん (78才)

事務所近くの花隈駅の103段の階段が上れなくなるまで活動を続けたいと。



第7回 ビルマスタディツアー報告

2005年7月23日～29日

村の仲間と選んだ次期研修生

今年のビルマ行きは職員2人に一般参加者3人の5人。昨年の同時期は、大雨で洪水のマンダレーでしたが、今年はほとんど雨が降っていませんでした。

ビルマ入りの日、ヤンゴンで会ったティンアンウィンさん(92年度)はしばらく勤めた国際NGOケアを辞め、いくつかのNGOを対象に就職活動中でした。昨年あった軍事政権内の動きによってか、海外NGOの活動は大きく制限を受けるようになり、スタッフの国内移動にもいちいち政府の許可がいるようになり、やりにくいそうです。ヤンゴンに出てくる直前までは、奥さんの実家があるティージャイ(マンダレーから北へ車で8時間)にしばらくいました。



イエボの4人は…

相変わらずこの国では外国人が村に泊まることができないため、マンダレーから毎日2つの村に通いました。先にイエボ村を訪ねました。3月に帰ったばかりのゾーウィンさんは中国製の耕運機をローンで手に入れていました。日本で施肥の大切さを学び、町から鶏糞を仕入れ、土を良くすると意気込んでいました。ケンターウエさん(03年度)は弟が結婚し家を出たため、家の農業の責任が増し、ゴマ、米、果物栽培に一生懸命。スウェウィンさん(02

年度)、カインソーさん(96年度)夫婦の間に生まれた男の子は9ヵ月。タイトル

ラスウェと名付けましたが、占い師からその名前は良くないと言われ、タイオンカともうひとつ名前が付きました。日本で学んだやり方で2回目の苗づくり。村の人たちが注目しています。カインソーさんは細いままですが、母乳で育てており、しばらくは育児中心です。落ち着いたらミシンを使った洋服指導を始めたいと話してくれました。

来年の研修生はタダインシェから

タダインシェ村には保育所で働くムームさん(93年度)とトゥンティンさん(93年度)が迎えてくれました。ムームさんは2年後に車で2時間程の故郷に引っ越すつもりで、そこで日本で学んだことを広めていきたいそうです。この地域の実質的リーダー役のトゥンティンさんは相変わらず精力的です。今年は雨季になっても雨が降らず、田植えがまともにできる心配が少なかったが、自慢の苗床に案内してくれました。この地を訪ねた篠山の渡辺省悟さん(故人)から教わった方法が安定し、村人の中にもねる人が増えてきています。播くモミの量が以前の10分の1以下になり、その上で田植えの方法も変え、収量が増えています。政府の人も彼のやり方に注目し、技術上のやり取りをするそうです。

この村にはトゥントゥンさん(94年度)もいましたが、今はマンダレーでホテル勤めをしながら大学院で歴史を勉強しています。



ビルマでは今も牛は重要な働きを。

2、3日間に面接と家庭訪問を行い、元研修生に村の仲間と協議し、27歳の女性スーティンさんを来年の研修生に選びました。現在、日本で研修中のテーさんの家にも寄り、元気でやっていることを伝えて喜んでもらいました。

今回の参加者は？

これまでに北タイのツアーに2度参加の山下久美子さん(大阪市)は、日本の生活でのイライラがなくなり、日本で会ったスウェウィンさんが覚えてくれたとニコニコ。研修生それぞれが日本で学んだことを形にしてくれて嬉しかったそうです。

元教師の西山澄子さん(神戸市)はティンアンウィンさんの家に住むおばあちゃんのお世話を村のみんなが代わる代わるしていたことが印象に残ったそうです。おばあちゃんの顔もすがすがしくなり、村のみんなもそのお世話を当たり前と思っていることがいいなあと。さらに教育者としての経験からは、訪ねた学校や寺子屋の子どもたちの熱心さに感心しながらも、だからこそそれに応える教育の内容の充実があるのでとのご感想。今回選んだスーティンさんの研修内容にも助言が頂けそうです。

神戸市シルバーカレッジでPHDの話聞き、会員となり、このツアーに参加の菅野一邦さん(神戸市)はお得意の絵でこのツアーを伝えてくれました。

研修生レポート

23期生

6月上旬～7月下旬

研修生は皆、兵庫県内での実地研修を3ヶ所終えたところです。初めは不安そうだった研修先に泊まりこむ研修方法にも慣れ、今では毎回次の研修を楽しみにしています。

テーさん ビルマ (タウンティナー)

機械に挑戦！！

最初の研修では昨年テーさんの村を訪問された渋谷さんのところで、有機農業による野菜栽培についていろいろと学びました。ビルマでは日常の農作業で触れることのないコンバインを運転したり、管理機を使つての里芋畑の培土作業で、機械の使い方も習いました。「渋谷さんは野菜のことを沢山知っている」と、勉強になったようです。



渋谷さんと一緒に野菜の収穫

牛の飼育との両立

続いて有畜複合経営を行っている中野さんのところで研修を行い、野菜の栽培と乳牛の飼育が深く結びついていること、そして、うまく管理することによって、野菜の栽培も牛の飼育も両立できることを学びました。

ポカシとの出会い

小前さんのところでは、ポカシ肥について学びました。暑い時期にポカシ肥を作るには通常よりも管理が難しいため、念入りに話を聞いていました。またビルマでは日本で使う材料が容易に手に入らないこともあるので、代わりに何を使えばいいのかなど、実践に向けて前向きに取り組んでいます。

ロナルドさん フィリピン (ロナルド・ザモラ・モラレス)



初めての研修に戸惑いながら徐々にコツをつかんでいます。

バイオガス作り

初めから沼山のことを学ぶことができました。橋本さん宅では有機による米や野菜の栽培以外にも、ポカシ肥の作り方やバイオガスの作り方を経験。また、市島町の提携グループの活動でもあるマーケティングについても学びました。

消費者との関わり

寺田さんはロナルドさんの村をこの春訪問した経験から、いろいろと相談に乗りながら研修を行ってくれました。ここでも消費者グループの集まりに参加したり、直売所を見学したりと、将来に向け生産した野菜の販売方法の事もしっかり考えています。

研修の復習

一色さん宅では今までの研修のおさらいです。今まで習った事をより自分のものにする時間ができました。残念ながら少し時期がずれており椎茸栽培は山を見学しただけに終わりました。次の機会に期待を膨らませています。

マスラルさん インドネシア (マスラル・アリソン)

日本の農家はよく働く

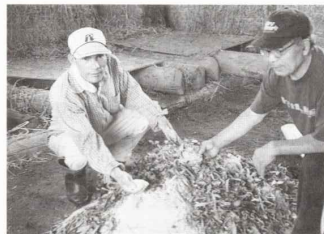
まず、藤井さん宅では日本の有機農業がどういったものなのか、野菜栽培や養鶏を通して広く学びました。インドネシアと日本の農家の労働量の差に少し疲れ気味でした。

小さな生物の力

牛尾さん宅での研修初日、最初に目に留まったのが田んぼの中を動き回る無数のカブトエビ。小さなおたまじゃくしほどの大きさで、田んぼの中を動き回ることによって草が生えにくい状態を作ります。小さな生物の力を借りた米の栽培にすごく関心を持ったようでした。

土着菌を探す

3ヶ所目の研修は酪農と米の栽培を行っている真柴さん宅での研修でした。真柴さんは土着菌を利用したポカシ肥作りにも取り組んでいます。研修初日、早速菌取りに出かけましたが長雨の後で菌が出ておらず断念。再度数日後に探してみたところ、良い菌が取れ、持ちかえてポカシ作りに挑戦しました。



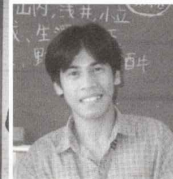
初めてのポカシ作りに手こたえを掴むマスラルさん

—今期は、農業研修生が3人なので、新しい研修先も増えています。

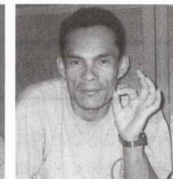
	6月					7月					8月											
	1	5	10	15	20	25	30	1	5	10	15	20	25	30	1	5	10	15	20	25	30	<敬称略>
テーさん																						
ロナルドさん																						
マスラルさん																						



テーさん



ロナルドさん



マスラルさん

半年の効果は盛り沢山！

研修生3人は、4月に来日し半年が過ぎようとしています。日本の姿が少し見え始めた彼らの心の中は・・・話を聞いてみるためミニ座談会を行いました。

——来る前の日本の印象は？

3人 (一同に) 技術が進んでいる。

——実際に来てみて自分の国と違うところは？

テーさん 村では田畑の仕事はすごい人数でやってる。皆で田植えも稲刈りもお弁当を持って来てやってる。日本は機械がやってるから田畑に人がほとんどいない。農作業を人を雇ってではなく家族でやっている。

マスラルさん 村では唐辛子をいっぱい植えている。でも病気になってしま

い困ってる。連作もしているから良くない。そして、日本の畑には道があるのがすごい。村は道がないから堆肥を運んだりするのはとても大変。牛車で運ぶけど、日本は道があるから便利。ロナルドさん フィリピンは台風が来て田んぼが川になってしまった。いっぱい魚がいて、今は魚を育てている。日本は台風が来ても、そんなにならないみたい。そして、日本の若い人は田舎があまり好きじゃない。日本はお年寄りがすごくがんばってる。

——日本で学んだことは自分の国で使えそう？

マスラルさん ポカシの作り方教えてもらった。これは村でも使えそう。作ってみたい。

◎テーさんのここに注目！！

テーさんの国ビルマでは年中夏です。ビルマの民族衣装のロンジーにはぞうりを合わせます。村ではゴムぞうりですが、ヨソ行きには革製のもの、「シックス・エレファント」というブランドが有名だそう。



ロナルドさん バイオガスに興味ある。他に大豆の加工とか。豆腐や納豆とか栄養も優れているし作りたい。

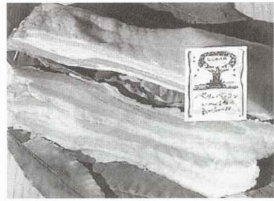
日本に来る前は有機農業、有機農産物の販売方法や椎茸について勉強したいと思ってた。販売方法について実際に学ぶことができうれしい。

テーさん 肥料作りやポカシはとても役立ちます。私の村では果物栽培が盛ん。今からは果物も研修するし、いろいろ学んでいきたい。ビルマで使えることは多いと思う。

3人も覚えてた日本語を駆使して一生懸命話してくれました。それぞれ県外での研修も始まり兵庫県と違った面を勉強できるのではないのでしょうか。彼らが近くに来た時には温かく迎えてやってください！

同じ買うなら、使うなら！
NO.1 ゴーバルのハム

世界の草の根の人たちと共に生きようと思う時、生活の中でできることとして考えるのは消費のあり方。ゼロにはできないから、こだわりたい。そこで企画の新シリーズ。



岐阜県の自然に囲まれた串原で作られています。小鳥のさえずりが聞こえる山の工房から手作りのぬくもりが届きます。

「Living is Sharing（生きるとは分かちあうこと）。この理念を掲げるのはPHDだけではない。

岐阜県の豊かな自然に囲まれた農場『ゴバル』。1980年の創業以来、安全な食品作りと自立した生活を目指し、ハム作りや有機野菜の栽培などを手がけている。

PHDの創立者である岩村昇博士のネパール滞在が、ゴバル創立のきっかけでもあった。「博士に同行した榊本という私の友人が、現地の生活に感

銘を受けたのです」と、ゴバルの石原さんは当時を振り返る。「生活は質素だが、本当の豊かさがあつた、素晴らしい。肉のうまみと風味の豊かさが絶妙だ。」

ゴバルとはネパールの言葉で『牛の糞』。燃料にしたり肥料にしたりと、現地の生活には欠かせない。そんな生活必需品を提供する牛は、村では特に大切にされているという。

創立から今年で25年。ハム作りを通

じて命の尊さを実感すると石原さんは言う。最近の、人命を軽んじた事件や、悲惨な戦争の数々に対しては「命が粗末にされている」と憤りを隠せない。「私たちは他の生き物たちの命をいただいて生きています。それを忘れてはならない。食べるとは、命、生活そのものなんです」どうやらゴバルにはもうひとつの理念があるようだ。「Eating is Living（食べるとは生きること）」。



菅原宗晋

お問合せ先

串原食肉加工組合 ゴバル
〒509-7803 岐阜県恵那市串原3777-3-1
電話番号 0573-52-2085
FAX番号 0573-52-2712
メールアドレス gobar@nifty.com
ホームページ http://gobar.org/

私の訪問記 VOL.2



ちえちゃん和田辺さん

今回、PHDの研修生を毎年受け入れてくれている大森家を訪問してくれたのは、兵庫県伊丹市にお住まいの田辺智子さん。

彼女はかつてPHDのタイツアーにも参加してくれ、現在もボランティアとして関わっています。

大森ファミリーは、自給自足をモットーとし大自然いっぱいの中で暮らしています。自給自足とは、有機農業とは・・・。心に残る言葉など報告してくれました。

7月17日、18日の2日間、あ〜す農場（兵庫県朝来市和田山町）を訪ねてきました。1日目は農場の豚の糞を利用したバイオガス作り。2日目は田んぼの草取り。安全な食物作りには手間がかかる分、作物や動物から命をいただくことに感謝の念を持ち、自然と調和した心地よさを感じました。

大森家には研修生や国内・海外からも訪ねてくる人が後を絶たず、いつも家族以外に誰かしらがいます。限られ

た食材の中で人数分に応じたメニューを瞬時に考え調理していく・・・頭の下がる思いでした。分かち合って食べる食卓には大森家の凛とした中にも優しさがあるように感じました。

それと、バイオガス作りの糞取りは初めてで、新鮮でしたが大変でした。豚小屋の上に渡してある幅細の板の上でバランスをとりながら長い柄のついたひしゃくで豚の糞をかき集めます。思うようにいかず、2頭の豚に柄をかじられるわ、取ろうと思っている場所に寝転がられるわでおおわらわでした。

あまりに時間がかかるので、指導してくれた大森家の3人娘（ちえちゃん 19才、れいちゃん、あいちゃん 共に15才）はあきれ顔でした。バイオガス作りや農作業、ハードな仕事を次々こなす大森家の子供も達は、

世界中どこに行っても暮らしていける、そう確信したのでした。

大森ケンタさんの言葉に納得させられたものがあります。豚以外に人間の利用する事があるとのこと。「たくさん人がいるとたくさんバイオガスがとれますね。」と相槌を打ったら、「都会の人は使えない。」とのこと。なるほど。有機野菜など農業や添加物を伴わない食べ物は微生物も喜んで活躍する。だけど都会の食べ物は毒だらけ。微生物も活力が弱まってしまうでしょう。



左からケンタさん、昌也さん（お父さん）、チーさん、あいちゃん、れいちゃん、ユキトさん



一この夏も数々のふれあいがありました

高校の文化発表会に、PHDグッズを展示販売

兵庫県立明石城西高校の文化発表会のバザー（6月21日・22日）で国際理解部のコーナーにPHDの物品（カレンの布、絵ハガキ、フィリピンカードなど）を展示してもらいました。PHDの説明をはじめ環境問題に対する取り組みである「電気を消してスローな夜を」をテーマにしたキャンドルナイトの呼びかけも生徒さんの手作りで掲げられていました。



偶然にも先生の誕生日。生徒さんからフィリピンカードでお祝です。

今年も続々、インターン

様々な活動を通じてPHDの理解を深めてもらうため実習生の受け入れをしています。今年もこれまでに4名（トライヤーク/鄭徳順さん、龍谷大学/風浦慧子さん、佛敎大学/福西麻美さん、小山遼さん）が参加。6月24日から10日間参加をしてくれた鄭さんは「PHDでの活動をスタートに在日外国人関係の活動も参加してみたい」と今後進むべき道への参考になったようです。



会報の校正作業を頑張っています。

松原高校から10名、来訪

6月28日、大阪府立松原高校の皆さんが来訪し、各グループごとに環境や国際協力について発表をしてくれました。職員と意見を交換し「私は物やお金を送ることがその国を豊かにすると思っていましたが、自分の考えの甘さに気がかされました。日本は多くの国を犠牲にしています。私は一度日本を見直すことをしてみたいです。」と、河村有紀さんは感想を話してくれました。



公正な取引であるフェアトレードについて発表してくれました。

西宮市環境学習サポートセンターにコーナー出展

7月22日に阪急西宮北口駅から北西2分のところに「コープ・NPO・NGO交流コーナー」がオープンしました。行政とコープこうべ、NPO・NGOが連携した国際協力の拠点となります。PHDの扱っているカレンの布や絵はがきなどを展示・販売しています。近くの会員の方、ソディのメンバーの方たくさん関わってくれています。ぜひお近くに来られる際にはお立ち寄り下さい。



机の上にはカレンの布と赤松さん（2Pで紹介）の手作りの小さな看板。

兵庫県西宮市甲風園1丁目8-1 コープこうべゆとり生活館アミ1階 Tel.0798-67-4520

日本の林業を考える一泊

今年も7月23日・24日に兵庫県篠山市で、大山振興会とウータンの協力を得て林業体験合宿を行い、11名が参加しました。「国産材はわずかしかわれず、輸入材がたくさん使われていること。その犠牲となっている国があることを感じる場となりました。」と、初参加の方が感想を話してくれました。篠山ロータリークラブからも実施に協力をいただきました。



どんな山になったらいいか理想の山をチームごとに発表しました。

PHD NEWS

◆会費・ご寄付寄託状況

2005年5月	44件	902,244円
6月	330件	2,568,783円
7月	332件	2,923,551円
706件		6,394,578円

以上の通り、大勢の方々よりご浄財を頂きました。研修生を支えるためのご協力に感謝申し上げます。研修事業のため有効に使わせていただきます。今後ともご支援をお願い申し上げます。

◆タイスタディーツアー参加者募集

12月23日～1月2日の11日間、カレンの研修生の村にホームステイをして村の生活改善への取り組みを学びます。

□訪問予定先□

タイ・カレン・バプティスト会議

バヤップ大学農村開発調査研究所

マクーンリハビリテーションセンター

チェンマイ県、メーホンソン県の研修生の村

□参加費□ □申込締切□

約18.5千円 第1次締切 11月22日(火)

◆東日本・西日本研修旅行のご案内

全国の皆様への活動報告とお礼、研修生の社会学習などを目的にした研修旅行を行います。ぜひお近くの方は研修生に会いに来て下さい。

□訪問予定□

東日本 (11月中旬～下旬)

愛知-静岡-神奈川-東京-山梨-長野-岐阜

西日本 (06年1月中旬～下旬)

宮崎-鹿児島-熊本-大分-福岡-山口-広島-愛媛-岡山

◆第19期関西NGO大学 9月開講

国際社会がかかえる課題に取り組む担い手を育てます。9月17、18日を皮切りに来年2月までの各月1回、1泊2日の6回シリーズです。当会職員藤野が校長を務めます。定員50名。

お問合せ、お申し込みは(特活)関西NGO協議会：電話06-6377-5144まで。

◆フェアトレードひょうごネット

神戸を中心とするフェアトレードの団体が集まり、セミナーを開催します。

ロナルドさんも参加してフィリピンでの生活を紹介します。お問合せはPHDまで。

お申し込み用紙をお渡します。

日時：10月29日(土) 13:30～

場所：神戸学生青年センター

◆今年もNGO相談員に

外務省のNGO活動環境整備支援事業のひとつ「NGO相談員」の委嘱団体となりました。国際協力活動に関する様々な相談・質問にお答えします！お気軽にご相談下さい。

◆日本福祉教育・ボランティア学習学会が開催されます

PHD協会も課題別研究に参加し、当会今井理事長が記念講演を行います。

第11回こうべ大会～震災10年記念大会

テーマ：ともに創ろう共生の社会-被災地からの学び

期日：11月25日(金)～27日(日)

お問合せ：神戸大学発達科学部内 ヒューマン・

コミュニティー創成研究センター

電話：078-803-7970

HP：http://rie.h.kobe-u.ac.jp/~hukuv/

◆第15回林業体験合宿 秋編「枝打・間伐」

今秋も大山振興会との共催により11月上旬に林業体験合宿を行います。日本の山を通して環境問題を考え自分の生活を見つめましょう。

お問合せ・お申し込みは高垣まで。



◆PHD事務所のパソコン危機！！

7月上旬のある日、突然サーバーが壊れて大ピンチ。現在は復旧しましたが、入金処理が滞り、領収書の発行が遅くなり、ご迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。データの外部流出はありませんのでご心配なく。

○月×日のPHD協会

職員 因幡 同時に複数の仕事を並行して進められるらしく、隣の席の職員が感心。ひとつやりかけて忘れて次にいつているのではとの意見もあり。

職員 藤野 小中高の先生を東北タイの村にご案内。先生方の現地学校での熱血指導、体力をかけた村人との痛飲交流に感動、苦笑、爆笑の連続。

職員 高垣 高校生5、大学生2、大人5とフィリピンへスタディーツアー。前号でふれた芸人にやっぱり似ていると道中「鈴木」と呼ばれ続ける。

職員 佐藤 和田山の大森家でバイオガスのための豚の糞尿運び。桶を置いた途端に飛び散り、目に入って大騒ぎ。ウンがついたと無理矢理納得。

(以上：夏休みの宿題を早く仕上げていた順
以下：仕上がらなかった人)

職員 佐々木 初のビルマ出張。夕刻、村の畑で働く女性の姿に感動し、いっぺんにビルマ好きに。ウナギの炒め物をアテに夜のビールも旨いし。

PHD会員制度のご案内

終身維持会費：	1口10万円 (任意の口数)
PHD会員：	年額 1口5千円 (任意の口数)
友の会会員：	年額 1口千円以上任意の額

当会は特定公益増進法人です。 ご寄附に対する免税の特典

当法人は特定公益増進法人としての認定を得ていますので、ご寄附に対する下記のような特典があります。

寄附者が個人の場合

寄附金合計額 (所得金額の25%未満) マイナス1万円が寄附金控除額 (所得総額から控除できる額) となります。
(例) 1000万円の所得の人が250万円を寄附されると249万円の寄附金控除。

寄附者が法人の場合

寄附金合計額が一般寄附損金算入限度額の2倍未満までが損金扱いとなります。
(例) 資本金10億で、その年の所得が3億円で1年決算の会社の寄附金の損金算入額は1000万円未満まで (一般では500万円)。

郵便振替口座

01110-6-29688

財団法人ピー・エイチ・ディー協会

編 集 後 記

今回ご紹介したグローバルの方々、イラク派兵差し止め訴訟の口頭弁論に足繁く通っています。農場経営を生業としながら、

国際協力・世界平和について考え、行動に移していく点が印象的でした。普段の生活で国際協力に直接関わっていくのは難しくとも、工夫次第で実践できることは少なからずあると思います。今回より連載の「同じ買うなら、使うなら！」では、そのうち

のひとつとして、賢い消費者になることを提案していきます。皆様からのご意見をお待ちしております。 (S)

制作協力

菅原宗晋、川畑千春、荒木里奈子、福西麻美、小山遼、増本一朗